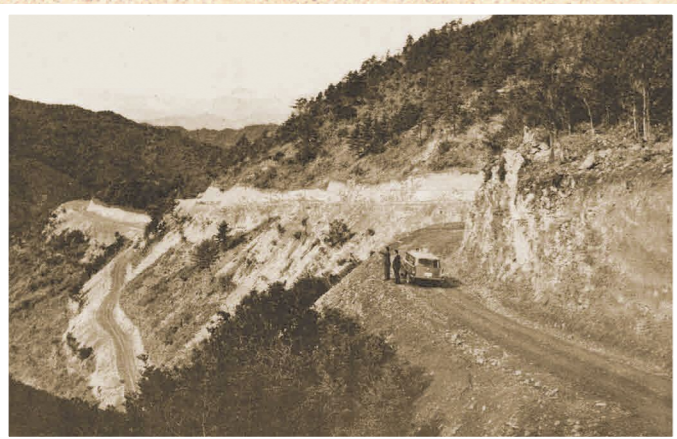




▲**鉱石を運ぶベルトコンベア** 桑野町を横断する広浦鉱業(株)のベルトコンベア。熊谷町の鉱山で採掘された鉱石(石灰石)を積出港の橘町幸田に輸送するため、昭和39年11月に建設された。



▲**真珠の養殖** 昭和30年代半ばから橘湾で始められた真珠の養殖。昭和40年代前半には年間5~6億円を売り上げる大産業に成長した。



▲**自衛隊により整備された県道豊野由岐線** 椿町と由岐町伊座利を結ぶ県道豊野由岐線(延長6.7km)は、自衛隊第109施設大隊の協力により、昭和40年から整備され、昭和42年1月に開通した。



▲**浜での慰安会** 桑野川河口で行われていた富岡町の人々による慰安会。この浜には、現在、王子製紙(株)富岡工場が建てられている。(撮影/昭和初期)



▲**辰巳新田** 那賀川と桑野川の合流地点に位置する三角州で、工業開発により昭和45年頃に全戸が移転。現在は工業団地に変容している。(撮影/昭和41年)



▲**昭和30年代の議場のようす** 市発足時から昭和41年まで、旧富岡町役場を市役所として使用。当時の議員定数は36人。(提供/タブチ写真館)



▲**伊島の町並み** 港周辺に形成された集落。港内には漁船が陸揚げされ、初代連絡船「美島丸」が着岸している。平成13年には、港内に設置されたものとしては全国初となる「可動式防波水門」が完成し、台風などの暴風雨の際に、漁船と島民の安全を守っている。(撮影/昭和36年頃・提供/川西藤彦さん)



▲**楠根の渡し船** 那賀川の岸と岸とを往き来する生活の足として活躍していた渡し船。対岸からの呼びかけにせっせと応え、時に物資や耕作の牛馬も運送。昭和52年に加茂谷橋が開通し、静かにその役目を終えた。



▲**陸揚げされた漁船** 昭和30年代の椿町蒲生田前浜の全景。収穫されたアラメが堤防沿いに干されている。陸運が発達していなかった当時、収穫した海産物や米は船で出荷していた。(提供/岡本重信さん)



橘湾の埋め立て工事 昭和28年、29年頃に行われた第一期工事のようす。後に、海岸線の左側に広がる塩田跡地も埋め立てられ、四国電力(株)の発電所や日本電工(株)の工場が建設される。(撮影/昭和29年頃・提供/藤倉康彦さん)